

ドキュメント・イメージング、文書情報マネジメント、レコードマネジメント…ECM活用事例に迫る！

# SaaS環境で展開する ECMソリューション

ハイランドソフトウェア

## SaaS環境でシステムを展開することで実現できる利点

めまぐるしく変化するビジネス環境において、時間や場所を問わず、迅速にそして最適な意思決定を促すために、質の高い事実に基づいた情報にアクセスできる、そして業務処理を継続して遂行できることが不可欠になってくる。しかしながら、財政圧迫によりIT投資は抑制され、企業は即効性がありROIを迅速に確実に実現できるプロジェクトに優先的に取り組む傾向にある。こういったビジネス環境やニーズを解決するために、ECMソリューションを従来型のインハウス導入ではなく、SaaS環境で展開することで実現できる利点について触れる。

### ■ ITリソースへの影響

SaaS環境でソリューションを展開することにより、サーバといったリソースを所有する必要がない。さらに、高可用性とロードバランス設定、システムの冗長化、性能維持、データベース管理、パッチ・アップグレード管理、セキュリティ監査、データバックアップといった一般的な保守・運用対策をする必要がない。ITへの物的および人的リソースの投入を削減または排除できる。

### ■ 費用対効果

導入にかかる初期投資やシステムを管理・運用するITコストを低く抑えられるため、ソリューション導入への判断がしやすくなる。また、ネットワークインフラストラクチャが整備されているため、必要なユーザーはすぐにWeb経由でシステムにアクセスし業務処理を行え、生産性の向上およびお客様のサービス改善が可能となる。かかる費用がある一方で同時に導入後ハードコストおよびソフトコストの両方におけるコスト削減が早い段階で現れる。

### ■ リスクの軽減

長期間におよぶ契約をする必要がない。毎月のサービス

使用料を支払う形態により、システムを利用する期間だけ支払えばよく、システムを利用しないとなった場合は無駄な資産を所有しているというリスクがない。さらに、SaaS型ソリューションを利用することで、新規ソフトウェアによる既存環境への支障を回避することができる。テクノロジーの変化に対応したソフトウェアの更新や新機能を利用でき、常に最新バージョンで稼働できる。

### ■ 迅速な展開を実現

導入時のハードウェアの調達やインフラの整備にかかる時間を排除できる。また、システム稼働開始後、拡張によりユーザー数が増加した場合やデータの容量が増大した場合も、業務のニーズに迅速に対応でき、追加の使用料を支払うだけでよい。

## SaaSソリューションの導入例 - Building Materials Holding Corporation社

BMHC社は、米国アイダホ州に本社を置く住宅建設業者や受託業者への建築資材および建設サービスを提供するリーディングプロバイダー。企業買収に伴い経理業務のボリュームも急増していく兆しがあり、人員や事務環境を追加するコストをかけず処理能力を高めたいという目標があり、支払処理業務を集約化・標準化することで効率化とコスト削減を図り、また経理統制の改善を実現するソリューションの導入を計画していた。2007年にOnBaseソフトウェアを利用したSaaSソリューション「OnBase OnLine」によるシステムを開始し、紙に依存した支払承認作業をペーパーレスのワークフロー主導の処理に転換した。電子化したイメージ文書を取り扱うことにより、正確性を維持しながらも膨大な支払承認処理のスピード化を図り、承認処理にかかるコスト削減と経理統制の強化を実現し、多大な費用対効果をあげている。イメージワークフロー導入の効果としては下記が挙げられる。

- 当初は20の異なる部門で実施していた経理処理を現在は担当者10人が在籍する1部署に統合した。

これらの記事は統合文書情報マネジメント (ECM) を推進するため、ECMを実践する企業へその戦略を寄稿していただいたものです。記事広告ではありません。

- 限られた人員で膨大な件数（請求書処理年間55万件～60万件）に対応し、非常に高い生産性をあげている。
- 作業の進行状況が透明化し、すべての文書をウェブ上で検索閲覧できる。
- 監査が簡素化し、短期間で完了可能となった。
- すべての情報が1つに集約され、1つのインターフェースからアクセスできる。
- 紙文書をファイルキャビネットで探す必要がなくなった。
- 業務のやり方を変えずに導入できた。
- Oracle E-Business Suiteをはじめとする複数の既存システムと連携している。
- SaaS展開により、IT部門のサポートがほとんど必要なくなった。
- 簡単に導入でき、ノートPCさえあればインターネットでアクセスし、場所や時間に関係なく業務を行える。
- ネットワーク、アプリケーション、プロセスの各稼働率が99.5%という高いサービスレベルが保証されておりリスクを緩和でき、事業の継続性を確保できる。
- 初期投資、運用コストが安価に抑えられるだけでなく、導入後拡張する場合もハードウェアを購入する必要がない。

### OnBase OnLineについて

OnBase OnLineは、ハイランドソフトウェアが2004年から開始したホスティングサービスで、OnBaseソリューションを

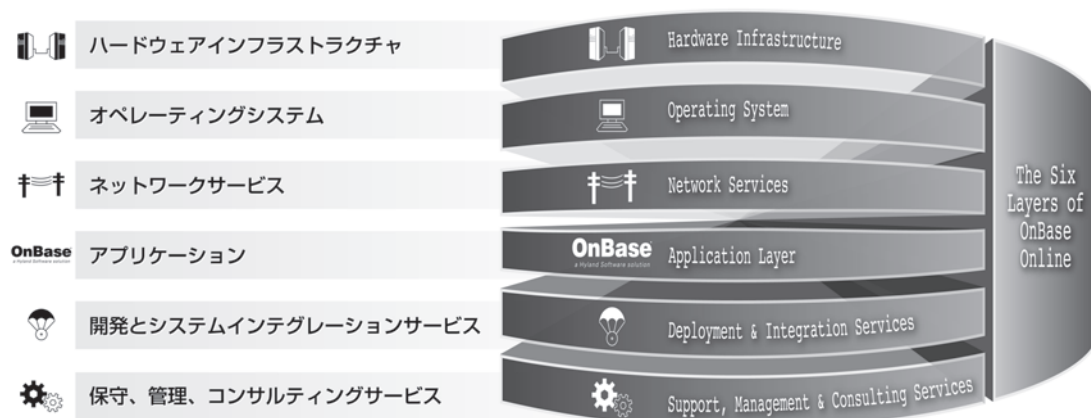
SaaS形態で提供している。文書管理だけでなく、既存システムとの高度な連携や大容量の処理を実行するワークフローの要件にも対応し、200社以上の企業がサービスを利用している。契約形態については、ソフトウェアとホストサービスに対し毎月の使用料を支払うタイプ、あるいは、ソフトウェアは一括購入しホストサービスのみ毎月の使用料を支払うタイプの2種類がある。また、インハウス導入しているシステムをホストサービスへ移行したい、あるいは、ホストサービスをインハウス導入に移行したいといった要望にも柔軟に対応している。

### 今後の動向

今後の動向としては、業種、業務、またはコンプライアンス対応など、特化したコンテンツ管理のニーズを満たすECMソリューションをSaaS環境で提供することが必須となってくる。日々の業務で発生する大量のトランザクションコンテンツの統合管理だけでなく、生産性と業務効率化を促進させるワークフローの実現や既存アプリケーションとの統合など、特化した業種や業務のビジネス課題を解決するベストプラクティスのソリューションをSaaS型サービスで迅速に展開していくことが求められる。

ハイランドソフトウェア社  
営業部 アカウントマネージャー

金井 芳美



OnBase OnLineは6つの階層を提供する